

第5回理事会(臨時) 議事概要

1 開催日時 令和5年9月14日(木) 15時00分～16時50分

2 開催場所 Japan Sport Olympic Square 14階 岸清一メモリアルルーム(東京都・新宿区)
次の役員は、自宅や職場、出張先からWeb会議システム(インターネット回線を使用した音声と映像を伝達するシステム)により参加すると同時に適時的確な意見表明が互いにできる状態となっていることを確認した。

伊東秀仁	岩渕健輔	太田雄貴
村井満	來田享子	渡邊守成
工藤陽子	塗師純子	

3 出席者 理事総数 30名

出席理事 28名(代表理事を含む。)

会長	山下泰裕		
副会長	三屋裕子	副会長	酒井邦彦
副会長	横井裕		
専務理事	尾縣貢		
常務理事	北野貴裕	常務理事	小谷実可子
常務理事	星香里		
理事	伊東秀仁	理事	岩渕健輔
理事	遠藤利明	理事	太田雄貴
理事	岡本友章	理事	杉山文野
理事	鈴木大地	理事	須藤実和
理事	田口亜希	理事	谷本歩実
理事	土肥美智子	理事	原田雅彦
理事	服部道子	理事	古谷利彦
理事	松田丈志	理事	水鳥寿思
理事	村井満	理事	八木由里
理事	來田享子	理事	渡邊守成

監事総数 3名

出席監事 3名

監事	工藤陽子	監事	寺田昌弘
監事	塗師純子		

4 議事の経過の要領及びその結果

定刻山下会長が議長席に着き開会を宣し、本理事会は定款第30条の規定に定める定足数を満たしており、適法に成立した旨を告げたのち、山下会長より、IOCが設置している33委員会のメンバーに、日本から10委員会に11名の方が就任したこと及び国際大会での日本選手の活躍を期待しているとの報告後、審議に入った。

5 議案

(1)第1号議案 国際総合競技大会関係について

- ・ 明年1月19日から2月1日までの14日間、韓国/江原道で開催される第4回ユースオリンピック冬季競技大会のTEAM JAPAN 団長に、原田雅彦理事を推薦する。
- ・ 明年2月24日から3月6日までの12日間、タイ/バンコク市及びチョンブリー市で開催される第6回アジアインドア&マーシャルアーツゲームのTEAM JAPAN 団長に、古谷利彦理事を推薦する。

決議内容

- ・第4回ユースオリンピック冬季競技大会（2024/江原道）TEAM JAPAN 団長 原田雅彦
- ・第6回アジアインドア&マーシャルアーツゲーム（バンコク・チョンブリ）
TEAM JAPAN 団長 古谷利彦

(2)第2号議案 JOC アスリート委員会選出委員選挙管理委員長及び委員の選任について

- ・明年開催される第33回オリンピック競技大会（2024/パリ）終了後、新たなアスリート委員会選出委員（夏季大会選挙区6名）を選任するために、選挙管理委員会の委員長について、前回も選挙管理委員長であった酒井邦彦副会長、委員について、冬季オリンピックの上村愛子氏、夏季オリンピックであり、前JOCアスリート委員長であった澤野大地氏にお願いしたい。

決議内容

- ・JOCアスリート委員会選出委員選挙管理委員長 酒井邦彦
- ・JOCアスリート委員会選出委員選挙管理委員 上村愛子、澤野大地
- ・任期は、令和5年9月14日から令和7年度6月に開催する定時評議員会の終結の時まで

(3)第3号議案 役員等賠償責任保険について

- ・一般法人法の一部改正（令和3年3月1日施行）に伴い、役員等賠償責任保険の補償内容の決定については、理事会での決議が必要となる。
- ・保険期間は、令和5年9月18日から令和6年9月18日まで、被保険者は、本会及び評議員、役員（理事・監事）となり、補償内容は役員及び法人に関する補償となる。
- ・引受保険会社は、東京海上日動火災保険株式会社。

決議内容

- ・加入する役員等賠償責任保険の補償内容

6 報告事項

(1) 専門委員会、専門部会について

前回理事会にて、会長、専務理事及び組織体の長に一任いただいた令和5、6年度組織機構の各委員及び専門部会員は以下のとおり。任期は令和5年7月19日より令和7年6月に開催される評議員会までとなる。

日本ユニバーシアード委員会

委員：苅部俊二、三友礼人、佐藤喜員、右近憲三、松井泰二、平井富弘、七川竜寛、竹内洋輔、大澤ちほ、鄭泰慶、青木雄介、山田利彦、大野淳、樋口彰紀、松澤大介、金井洋、遠藤智徳

< 専門委員会 >

倫理委員会

委員：須藤実和、飯田隆、辻居幸一、山脇康

アスリート委員会

委員：太田 雄貴、伊藤華英、小口貴久、高平慎士、高橋成美、田中琴乃、堀島行真、三井梨紗子、米山知奈

※ 夏季選出委員の土井レミイ杏利、戸邊直人、三宅宏実の各委員（令和3年11月24日選任）の任期は、令和7年6月に開催される定時評議員会の終結の時まで

国際委員会

委員：荒木田裕子、大塚眞一郎、川延尚弘、齋木尚子、齋藤麻美、寺尾悟、中村英正、望月宣武

利益相反マネジメント委員会

委員：八木由里、國井隆、辻居幸一

<専門部会>

選手強化事業専門部会

委員：田口亜希、谷本歩実、服部道子、古谷利彦、井上康生、杉田正明、皆川賢太郎

情報・医・科学専門部会

委員：中嶋耕平、赤木龍一郎、江田香織、蒲原一之、上東悦子、寒川美奈、鈴木章、高垣智博、武田秀樹、寺本篤史、友利杏奈、半谷美夏、真鍋知宏、渡部厚一、立花泰則、結城匡啓、秋葉茂季、浅田佳津雄、栗木一博、岩原文彦、河合季信、土屋裕睦、速水達也、広瀬統一、河村亜希、松生香里、渡辺啓太、橋本峻

ナショナルトレーニングセンター専門部会

委員：前原正浩、柴真樹、小口貴久、石野枝里子

アンチ・ドーピング専門部会

委員：高橋健志、浅川伸、齋藤里香、辻居幸一、馬場昭江、渡部厚一、三宅宏実

オリンピック・ムーブメント事業専門部会

委員：杉山文野、伊藤華英、大津克哉、小口貴久、小塚崇彦、齋藤里香、高平慎士、田原淳子、勅使川原郁恵

アントラーズ専門部会

委員：荒木絵里香、太田雄貴、田口亜希、杉田正明、土屋裕睦、能瀬さやか、山口理恵子、寺尾悟

(2) 第2次 JOC 中期計画 (2025-2028) 策定に係る推進体制及び全体スケジュールについて

令和7年度からスタートする第2次中期計画について、その推進体制と全体スケジュールについて報告。今回の対象期間は令和7年度から令和10年度。5つの柱立て（オリンピックの価値発信、アスリートの育成・強化、国際交流の推進、JOC組織力。基盤強化、NF連携・支援）は継承し、関係する部署の主要担当者でワーキンググループを編成し、専務理事、常務理事、事務局長等をメンバーとしたステアリングコミティーと事務局機能を総合企画部、外部有識者で構成し、進捗管理、全体方針の設定、中期計画案の承認を行う。現在、中期計画の運用、各年度事業計画や予算管理の適正化を進めており、今後、各事業計画とJOCの目指す方向性との整合を一層高めていく。

杭州アジア大会後に本格的な検討に入り、令和7年1月に完成、3月に公表と進めていく。理事会には、明年3月もしくは4月に報告を行い、意見を伺う予定。事務局内有志によるプレワーキンググループを立ち上げた。

【主な意見等】

- ・評価、事業の優先順位について確認したい。東京2020大会が開催されたが、その後の対応において、オリンピックそのものの価値が低下していると感じている。オリンピックの価値向上とともにオリンピックが社会とどう向き合っていくのかその点も重要である。
⇒評価について、年度毎に計画を見直しつつ、外部有識者にも協力いただく予定。評価について、事務局では半年に1回行っており、理事会でも第1次JOC中期計画の1年目終了時点で進捗報告済み。優先順位について、PDCAの中で検討し、ステアリングコミティーの意見をいただきながら進めていく。
- ・計画からぶれずに進めていくことは大切であるが、スポーツを取り巻く環境はより速いスピードで変化している。説明で、進めながら、半年に1回、アクションプランを見直すとのことで、その変化に対応しつつ、進めていくことが理解できた。「NF連携・支援」のところで、各NFが共有する仕組み作りを検討いただきたい。NFがJOCに頼るのではなく、共に進めていくスタイルを構築いただきたい。
⇒中期計画は4年周期で立てていくが、社会の状況に応じて、修正を加え、整理・評価し

ながら、1年毎の見直しながら進めていく。JOCとしても、NFと共有する仕組み作りを検討していきたい。

- ・JOCの社会における価値を掘り下げ、言語化、共有化して、それをどう4年間で進化させていくのかといったことの共有感を持つ事で、施策の中でブレが生じなくなる。現在は、ストックに社会に対してできることを記載しているが、外部発信を念頭に一般の方にとってわかりやすくするという点も考慮に入れると良いかと思う。

⇒わかりやすい言葉で伝えることを検討していきたい。

(3) 国際総合競技大会関係について

1) 第19回アジア競技大会(2022/杭州) TEAM JAPANについて

9月23日から10月8日に開催される第19回アジア競技大会(2022/杭州)のTEAM JAPAN選手団員は、選手771名、役員255名、アディショナルオフィシャル111名、計1,137名、旗手は、清水彰人(ライフル射撃)選手、江村美咲(フェンシング)選手となった。なお、TEAM JAPAN本部には、副団長に谷本歩実理事を追加し、よりアスリートに近い存在として本部役員に石川佳純氏に加わっていただいた。

2) FISU ワールドユニバーシティゲームズ(2021/成都) 概要報告

7月28日から8月8日に開催されたFISU ワールドユニバーシティゲームズにおいて、TEAM JAPANはチームビルディングの実施から、コミュニケーションを重視したチーム作りを行い、コンセプト「団結」のもと、金メダル21、銀メダル29、銅メダル43 計93を獲得した。団長賞は、11のメダルを獲得した柔道チーム、国際大会において種目(男子110mハードル)初となる金メダルを獲得した豊田兼選手及び強いリーダーシップによりチームジャパンの団結力を示した濱田一輝選手の3名とした。今回のFISU ワールドユニバーシティゲームズでの経験から、杭州アジア大会日本宿泊棟には選手がよりリラックスするラウンジを設ける予定。

3) 第2回東アジアユース競技大会(2023/ウランバートル) 概要報告

8月16日から23日まで、7NOCから808名が参加し、第2回東アジアユース競技大会が開催された。TEAM JAPANは77名(選手48名、役員29名)が参加し、金メダル22、銀メダル6、銅メダル12 計40を獲得。団長賞はボクシング競技/秋元啓介選手及びeスポーツ競技日本代表チームとした。秋元選手は銅メダル獲得ではあったが、他国選手と積極的に友好を深め、TEAM JAPANを盛り上げ、一体感を醸成した、eスポーツ競技日本代表チームはモンゴルの文化を楽しみ、選手やボランティアスタッフと関わり友好親善に努めた。

4)パリ 2024 各国・地域選手団長セミナー概要報告

7月13日から18日に開催されたパリ 2024 各国・地域選手団長セミナーに196のNOCが参加し、準備状況、会場視察を行った。団長会議で得た情報に関しては各競技団体と共有し、漏れのないよう準備を進めていく。

(4)国際委員会関係について

1)OCA アスリート委員会選挙の実施について

OCA アスリート委員会選挙が杭州アジア大会期間中に実施される。OCAでは初めて選手の投票により委員を選出する。選手は5地区からの立候補者に対して、各地区男女1名を選出、全10票を有している。立候補者は計26名となり、東地域からは男子4名、女子2名が立候補している。日本からの立候補者は、OCA アスリート委員会選挙対策会議にて検討、会長、専務理事及びJOC アスリート委員会にもご意見をいただき、戸邊直人(陸上競技/走高跳; ジャカルタアジア大会出場)氏を候補者として準備を進めている。

2)EAOC 評議会概要報告

8月17日に、モンゴル・ウランバートル市において東アジアオリンピック委員会評議会が

開催され代理出席者含め 13 名が出席した。主な内容は、常設委員会（ルール&スポーツ委員会、医事委員会）委員長からの報告、東アジアユース競技大会組織委員会からの大会準備状況の報告、2023-2027 評議会及び常設委員会体制の決定であった。

(5)マーケティング関係について

TEAM JAPAN パートナーシップ契約状況について

本年 7 月に、日本生命保険相互会社、パーク 2 4 株式会社、全日本空輸株式会社、日本航空株式会社とそれぞれパートナーシップ契約締結を公表し、TEAM JAPAN パートナーは計 17 社（TEAM JAPAN ゴールドパートナー 5 社、オフィシャルパートナー 4 社、オフィシャルサポーター 4 社及び公式旅行代理店 4 社）となった。日本生命保険相互会社には、オリンピックの開催に合わせて実施された「がんばれ！ニッポン！キャンペーン」等の活動によって、長年オリンピックや TEAM JAPAN に対する関心を全国に広めていただいた。パーク 2 4 には、東京 2020 大会を機に TEAM JAPAN のパートナーとなっただき、継続して支援いただけることとなった。全日本空輸株式会社、日本航空株式会社には、長年オリンピック・ムーブメントの推進をはじめ、数多くの競技団体も支援いただいている。

(5)TEAM JAPAN SUMMER FEST について

パリ 2024 大会 1 年前を迎え、機運醸成とともに気候変動が地球環境やスポーツに与える影響を考え、活動に移す機会として、パートナー企業や夏季競技団体と連携し、7 月 26 日から 8 月 11 日まで TEAM JAPAN SUMMER FEST を開催。7 月 26 日のオープニングイベントとして、ミッドタウン日比谷でオリンピックのトークショーやオリンピックにチャレンジする競技体験、衣料品回収 PR を実施。27 日から、ららぽーと豊洲にて、三井不動産や ENEOS と連携して、競技体験、衣料品回収、公式スポーツウェアの展示を行った。また、東武タワースカイツリー株式会社の協力のもと、7 月 26 日に東京スカイツリーの特別ライティングを、8 月 11 日にアスリート委員が一般参加者とパリ 2024 大会 TEAM JAPAN の活躍祈願及び機運醸成を目的に 2,552 段の階段で展望台に登るイベントを開催した。

(6)第 20 回アジア競技大会（2026/愛知・名古屋）大会進捗状況について

愛知・名古屋 2026 アジアパラ競技大会開催都市契約について、アジアパラリンピック委員会（APC）との協議の結果、開催都市契約の内容（16 条項）について合意に至り、2023 年 9 月下旬もしくは 10 月上旬に契約の締結を行う予定。先般、7 月 8 日開催されたアジアオリンピック評議会総会で承認された追加競技 9 競技の会場について、別添規程を定め、愛知県武道館を始め 9 競技会場が仮決定した。なお、過去のオリンピックやパラリンピックなどの国際総合競技大会の知見や意見をくみ上げ、大会運営に反映させ、大会の機運醸成を図ることを目的として、アスリート委員会を設置することとなった。委員は地元ゆかりのアスリート、JOC・JPC アスリート委員会からの推薦者、OCA・APC アスリート委員を候補者とし、性別やパラアスリートのバランスを考慮し、5 名以上 15 名以内で構成する予定である。

8 その他

- ・プライドハウス東京リーフレット「スポーツ界にアライを増やそう！」を杭州アジア大会 TEAM JAPAN に配布したことを報告。本会として、スポーツ界における LGBTQ+ についての理解促進のための協力をしている。
- ・第 6 回理事会は 12 月 18 日(月)15 時から開催すると報告。

以上